

2025年2月 (No.428)

主な内容とページ

半導体、年内は好調持続か	1
地域別では米が突出、中国は減速	2
半導体輸入は失速、内需の調整	3
日本市場は最高更新の 7 兆円規模	4
AI、ブームとバブルの分岐点	5
世界半導体企業 45 社、第 4 四半期業績結果	5
米半導体第 4 四半期結果 さらに良好な結果	10
逆回転の限界(SRL だより)	13

半導体、年内は好調持続か

半導体需要は好調が持続、AI ブームがけん引しており、年内はこの動きが続く可能性が高い。

1. AI 用半導体のプロセッサ、高帯域メモリなど受注は旺盛で、今年は 5 割、供給次第では倍増の伸びが見込まれている。
2. 「AI ブーム」が「AI バブル」に転じることが懸念されるが、今のところその兆候は少なく、現行のネット社会に代わる新たな生態系を築くまで時間を要しそう。この間、投資は持続する。
3. 既存の半導体市場は、AI ブームの影響を明暗両面で受け、供給過剰あるいは反対に品不足など不確定要因が増大、難しい対応を迫られる。

逆回転の限界

米国トランプ大統領が矢継ぎ早に打ち出す政策は、米国でもう一度製造業を復活、それによって国内雇用を回復、分断をやわらげ失われた民主主義を取り戻す。このため関税、移民、政府支出など大胆な措置を適用する。これが出来なければ米国は格差が増大、低所得者層が行き場を失ってしまう。と私はみている。

そのやり方は第2期安倍政権と同様、再登板までに策を練り、当選したら一気に実行、批判や評価の時間を与えない方法は親しかった仲が関係しているかもしれない。しかし、米国は、自由貿易、移民など利益を最大限に享受、これが国の基盤でもあった。トランプ氏のやり方は、そこから逆回転させようとしている。

歴史、制度など形作られたものを変えるには、同じ程度の時間や労力がある。政治的に変えるとしてもせいぜい時間や手間を半減できれば上出来だろう。トランプ氏の任期は4年で再選はない。与えられた時間は極めて限られる。どこまで逆回転できるだろうか。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。但しオンライン法人契約を除きます。
この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。

2025 年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2025 年 2 月 (毎月 1 回発行) 第 36 巻 2 号 (通巻 428 号)

発行元: 株式会社 SRL

〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-865-67

TEL 042(318)7729

編集・発行人/大竹 修

© (株)SRL 2025

SRL Monthly Report

February 2025, No.428

Semicon Research Ltd.

2-865-67 Suzuki-Cho, Kodaira -City, Tokyo 187-0011 Japan

Publisher/Editor Osamu Ohtake

個人利用購読料金 1 年分 12 号 107,800 円 (税込み)